













水戸黄門





















東播海岸保全施設整備事業

東播海岸は、白砂青松の地として古くから多くの人に愛されてきました。現在では、僅かに残された地にかその面影を窺ふ事は出来ませんが、先人の残した歌により、その昔、松林を背景に白い砂浜が長く続き、には漁をすする真帆片帆、近頃はは淡路島を望み、さながら絵を見る様な美しさであった事が推察されます。

本海岸は、幾度もの台風等により海岸は侵食され、国の典型的な侵食海岸の一つに数えられてきました。食された海岸からは、明石象の化石が出土するとともに昭和六年には旧石器時代の人骨が発見され、「明石原人」と呼ばれる様になりました。

本海岸における事業は、昭和九年の室戸台風、昭和十五年のシエラ台風により被害を受け、海岸事業の重要性が認識され、昭和三十六年より建設省直轄、東播海岸保全施設整備事業として、侵食防止、高潮対策の護工、消波工、離岸堤、養浜工等を施工し海岸保全施設として大きな成果を上げております。

本海岸の変遷を表現したこの石張王サウザパネルが、恵まれた自然環境と調和し、皆さんと共に、安らぎを感ずる海岸に出来れば幸いです。

平成二年三月

建設省近畿地方建設局

姫路工事事務所

海とのふれあいを求めて



海をきれいに大切に



国土交通省所管 東播海岸

